

GLOBAL VOYAGE

[グローバル ヴォヤージュ]

PEACE BOAT

2023

Winter

アロハ！ハワイ

第二特集

ピースボートと世界遺産の魅力

[水先案内人] 久保 美智代さん

[発行] (株)ジャパングレイス



Hawaii's 4 Islands

楽園をまるごと楽しもう

アロハ！ハワイ

大小100以上の島々からなるハワイには6つの主要な島がある。そのうちピースボートクルーズで寄港するのはオアフ島、ハワイ島、マウイ島、カウアイ島。抜けるように青い空、白いビーチ、そして燐々と降り注ぐ太陽の光。開放感に満ちた景色と空気が歓迎してくれる。魅力的な自然やアクティビティとともに、ハワイの歴史や文化にふれて旅をいっそう豊かなものへ。アロハ！ハワイ。太平洋の真ん中の南国を満喫しよう。



Honolulu/Oahu ★ Hilo/Hawaii ★ Kailua/Maui ★ Nawiliwili/Kauai

GLOBAL VOYAGE
2023 Winter

CONTENTS

特集

楽園をまるごと楽しもう

アロハ！ハワイ P3

自然が生み出したパラダイスへ P4

ホノルル[オアフ島]

ハワイの経済、文化、そして観光の中心地 P6

ヒロ[ハワイ島]

郊外の雄大な自然が大きな見どころ P8

カフルイ[マウイ島]

絶景の渓谷から澄み渡る海まで満喫 P9

ナウイリウイリ[カウアイ島]

ハワイで最も歴史ある島の遺跡と自然 P10

水先案内人インタビュー

サンディーさん P11

旅の思い出をいつまでも

世界のお土産・手工芸品 P12

第二特集

水先案内人が語る

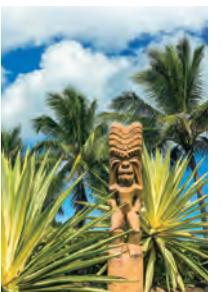
ピースボートと世界遺産の魅力 P14

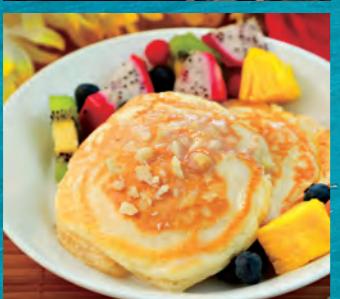
久保 美智代さん

PEACE BOAT ACTIVITIES P18

表紙の写真

オアフ島のティキ。木彫りの像や石像など、神の像をティキという。古代ポリネシア時代に家などで崇められ、現在はハワイの歴史的な神のシンボルになっている。





Hawaii

自然が生み出したパラダイスへ

太平洋の真ん中に位置するハワイ諸島。美しいビーチと景観により、リゾート地として多くの観光客を惹きつけているが、古来、王国が生まれ変遷を遂げてきた歴史におけるカルチャースポットも魅力的だ。また、ここにしかないダイナミックな自然にも見どころが多い。

ハワイの挨拶、といえば多くの人が「Aloha(アロハ)」を思い浮かべるだろう。「こんにちは」を意味する和といった意味が込められているそうや「愛してる」といったさまざまな感情を表す言葉であり、さらに掘りさげる優しさや謙虚さ、調和といった意味が込められているぞうだ。素敵な響きをもつ「アロハ」の挨拶で、ハワイと友だちになろう。

ハワイの歴史は約1500年紀に入りカメハメハがハワイ諸島を統一してハワイ王国が誕生。その後、アメリカからプロテスチントの宣教師などが移住して西洋の影響が拡大。1898年ハワイはアメリカの属領となつた。1959年にはハワイ州としてアメリカ50番目の州となり今日に至る。20世紀には日本人をはじめ各国からの移民が増え、それが現在の多様な人種構成につながつてゐる。

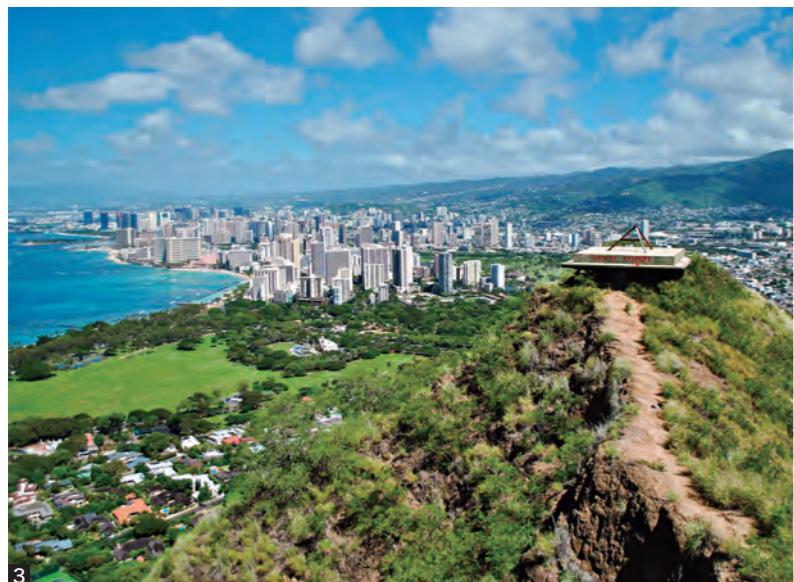
西洋の影響といえばハワイ音楽もそのひとつ。移民が持ち込んだギターや贊美歌が古来の音楽と融合した。ウクレレもボルトガルから持ち込まれたものといわれている。伝統的なフラダンスは神に捧げる踊りで、モロカイ島の洞窟で女神ラカが踊った踊りがフラの起源といわれている。ハワイアンミュージック、フラとともに観光客に人気で、年間を通して体験や鑑賞ができる。

その観光客の数は年間600万人超。1年中温暖で美しいビーチをはじめマリンレジャーが人気のほかジャングルや渓谷、火山や滝など豊かな自然も唯無二で、その素晴らしさを堪能できるツアーも数多い。またハワイには多くの神話、伝説があり島のあちらこちらにその舞台が点在している。各島によって自然や史跡にも特徴があるのでその違いも楽しみたい。

Honolulu

ホノルル [オアフ島]

ホノルルのランドマーク的な存在で市街地からのアクセスも良好な「ダイヤモンドヘッド」からは、ワイキキビーチが一望でき、青く広い海と空を眺めながら爽快なひとときを味わえる。ワイキキビーチは3kmにわたり8つのビーチが続き、常に観光客で賑わっている。近隣にはカフェやレストランが多くグルメを楽しむこともできる。お土産探しにはビーチから近く、ハワイらしい雰囲気の「ロイヤルハワイアンセンター」や、300以上の店舗数がありフラダンスショーなども開催されている「アラモアナショッピングセンター」がおすすめ。ダウンタウンにある「イオラニ宮殿」はハワイ王国の栄華を物語る豪華な建物で、見学が可能。日本語の案内によるツアーもあり、ハワイ王国の歴史や展示物について知ることができる。宮殿の向かいには、かつてハワイ諸島を統一した「カメハメハ大王像」が威風堂々たる姿で建ち、観光客の人気を集めている。近隣の「ホノルル市庁舎」や「ハワイ州議事堂」も観光スポットとして人気がある。映画『ジュラシック・ワールド』の撮影にも使われた「マノア滝」は高さが50mあり、周囲の大自然とあわせてアドベンチャーアクションを楽しめる。



1:ハワイ初のオリンピック選手で競泳で金メダルに輝いた英雄を称える「デューク・カハナモク像」。2:ワイキキビーチからのサンセットの美しさに多くの人が魅了される。



カラフルなシロップで知られ、ハワイの気候にぴったりの「シェイブアイス」。
ご飯にハンバーグと目玉焼きを乗せたハワイのソウルフード「ロコモコ丼」。



5:オキナワンとの交流ではサーターアンダギーがふるまわれることもある。6:ハワイ文化にまつわる展示が充実している「ビショップ博物館」。

ハワイのオキナワンに会いに行く

体験ツアーでは、沖縄系移民の方との交流の機会を予定している。19世紀半ばから約100年にわたり多くの日系移民が海を渡った。従事していたのはサトウキビ栽培で厳しい環境のもとで働いていたという。当時の暮らしぶりを知る施設「プランテーション・ビレッジ」を訪問し沖縄出身の日系移民（通称・オキナワ）の方々からお話を聞く。ハワイの人だけでなく沖縄県以外の日系移民からも別の民族として差別を受けながらも、苦しい日々を乗り越え、自分たちのコミュニティを築いてきた。現地を訪れることで、「オキナワン」というアイデンティティを育んだ歴史を知ることができるだろう。



Kahului

カフルイ [マウイ島]



絶景の渓谷から澄み渡る海まで満喫

ハワイ島に次いで2番目に大きいマウイ島は、世界屈指の美しいビーチやホエールウォッチングが人気。カルフィは島の玄関口で、大きな港をもつ。またこの地はカメハメハ王がハワイ諸島統一に向けて第一歩を踏み出した場所としても知られている。

マウイ島では赤茶色の大地が広がる壯観な景色も見ることができる。



作家マーク・トウェインが「太平洋のヨセミテ」といった渓谷をもつ「アイオ渓谷州立公園」。



土産品としてさまざまなフラダンス人形が販売されている。ハワイで人気のローカルフード「ガーリックシュリンプ」。お店によって個性ある味を楽しめる。



ラハイナ駅に展示される「シュガーケイン・トレイン」は、かつてサトウキビを運んでいた蒸気機関車。

「アイオ渓谷州立公園」はハワイアンにとって神聖であった渓谷がある公園で、かつてカメハメハ軍とマウイ軍が交戦した場所でもある。大きく突出した山「アイオニードル」は最大の見どころだ。ハワイ最大規模の水族館「マウイ・オーシャン・センター」には世界有数のサンゴ礁やウミガメ、ハワイ固有の海洋生物が展示されている。「マウイ・トロピカル・プランテーション」はパイナップルをはじめさまざまな農産物を栽培しており、販売も行っている。売場面積も広く特産品や工芸品なども扱っているのでお土産選びも楽しい。島で最も高いハレアカラ山のある「ハレアカラ国立公園」は広大な敷地のなかで壮大な自然を満喫できる。映画『2001年宇宙の旅』

の撮影地にもなった。また多くの絶滅危惧種が生息していることでも知られている。海へ行くなら「カハナビーチ」へ。きれいに整備された遊泳専用エリアもあって、のんびり過ごすことができる。

Hilo

ヒロ [ハワイ島]



郊外の雄大な自然が大きな見どころ

ハワイのほかの島の面積を合わせてもこの島には及ばない「ビッグアイランド」と呼ばれるハワイ島。その郡庁所在地で、ハワイではホノルルに次ぐ第二の都市がヒロだ。素朴な雰囲気に惹かれて多くの観光客が訪れる。

落差24m、滝幅は直径30mあるダイナミックな「レインボーワーク」。



1:活火山キラウエア火山を中心とした「ハワイ火山国立公園」。パワースポットの一つとされている。



2:カメハメハ一世が生まれ育ったハワイ島にも銅像が建っている。



3:海外最大級の日本庭園がある「リリウオカラニ公園」。

ヒロ湾に面するベイフロントは、築100年以上のノスタルジックな建物がギャラリー、ショッピング、レストランなどとして活用され、散策する

のが楽しいエリアだ。ダウンタウンの近くでは、虹がかかることで知られるレインボーワークのある「ワイルクランバード」がおすすめ。郊外にも見どころは多く、ハワイ最後の王の名にちなんで名付けられた「リリウオカラニ公園」では赤い太鼓橋、石庭、茶室などをしつらえた美しい日本庭園を見ることができる。また「ハワイ火山国立公園」はキラウエア火山とマウナ・ロア火山という2つの火山を擁し、世界遺産にも登録されている。雄大な自然が数多くあるのが特徴だが、ハワイは世界有数の天文観測地として知られており「イミロア天文学センター」は世界レベルの科学教育施設で、ハワイの伝統的な航海術の展示をはじめ最新のプラネタリウム、四次元デジタル宇宙シアターで迫力の映像を楽しむことができる。



ウクレレ専門店もあるので興味があればお土産にもぜひ。



水先案内人が語る

ピースボート クルーズ体験

フラダンスを通してハワイと深い縁をもつ、水先案内人のサンディーさんにハワイの魅力、ピースボートクルーズの魅力などを伺った。



水先案内人
サンディーさん

日本における女性ボーカリストの先駆者。10代を主にハワイで過ごしフラと出会う。歌手として世界を舞台に活躍し、2001年にサンディーズ・プラスタジオを設立。フラの正統的継承者として2005年にウニキ・クムフラ(フライマスター)のタイトルを受け継ぐ。

Sandi's Hula Studio
<https://hula.sandii.jp/>

海原の向こうに
ハワイが見えてくる感動

天然の楽園、ハワイから感じるもの

ホノルル港に入港するときにアロハタワーが徐々に大きくなつて見えてきます。アロハタワーはハワイの歴史を見守ってきたシンボルです。広い海を渡つて見えてくるハワイ、あれはクルーズならではのワクワク感があります。同時に150年以上前に日本からハワイへ移住した人たちの気持ちを想像してみてください。不安もあったはずだろくほど大きな希望があつたはずで、その時代に思いを馳せるとロマンを感じますよ。



旅を通して
幸せになり、豊かになつていく

ピースボートクルーズの素晴らしいところが、乗つたもん勝ちのようなどころが、あって、乗つてみると有形無形の恩恵を受け、財産を得ることができます。世界のさまざまな場所で縁をもらい、仲間が増えていく。旅を通して、幸せに豊かになつていく。フラを踊るのと同じで、気持ち良く自分が解放される旅へ出かけましょう。

美しい島を、いつまでも美しく

豊かな自然に恵まれたハワイをたんなる観光地としてとらえずに、いつまでも美しさを守つていく当事者としての姿勢をもつてほしい。たとえば次に訪れる人のために、自分が訪れたときよりも良い状態にしてください。ハワイにはゴミ箱がいっぱいありますが、そこには「トラッシュボックス(ゴミ箱)」ではなく「マハロ」つまり「ありがとうございます」と書いてあります。自分が落としたゴミでなくとも気づいたら「マハロ」を入れてください。

ハワイを訪れるのがクルーズの最初か最後かによつてもどちら方が違うでしょ。最初に訪れる方には、とても優しいハワイの風をデッキでぜひ感じてほしい。見るものを感じるものを持ちやんのよ。

クルーズの最後に訪れる方は、まるで天國のようなハワイが、神様が用意してくれたプレゼントのように思えます。世界をまわつて見てきた美しい場所、景色とともに豊かで美しいこの地球や自然を守つていく気持ちが生まれるでしょう。

一つひとつの島に個性的な魅力がある

さて、それぞれの島の魅力についてお話ししましょう。カウアイ島は一番古い島で、いまだに空気のなかに神秘が生きているのを感じます。山が険しくそびえ立つて私は一番好きですね。マイアヒ島は山も尖つていなし、雰囲気が柔らかいです。ハワイ島は天地創造を見ているようなイメージがあります。火山の女神ペレが踊っているようで、地球の心臓という感じがします。オアフ島、特にホノルルは私にとってはリビングルームのようです。街中にいればハワイを感じるすべてが手の届くところにあります。



ハワイで最も歴史ある島の遺跡と自然

ハワイ諸島最北に位置するカウアイ島。550万年以前に海底火山の噴火で誕生した。別名ガーデン・アイランドと称され、太古の自然が残り見どころが多い。数多くの映画のロケ地としても知られている。

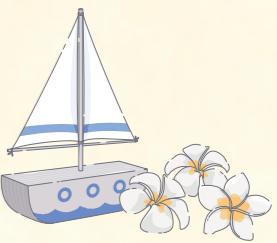


1: 緑の山々を背景にした美しい「ハナレイ湾」。2: シダに覆われた巨大な「シダの洞窟」では王族の儀式が行われていた。3: 虹が出現することもある迫力満点のワイルア滝。4: 南国らしく、パイナップルを具材と器に用いる「パイナップルチャーハン」。

カウアイ島で最大の湾「ハナレイ湾」は山々とヤシの木に囲まれた美しい海岸線が広がり、地元の人にも人気のスポット。歴史ある「ハナレイ桟橋」からは透明感のある海中をのぞくことができる。島の北東に向かつて丘が続き、その先に「カラレア山」がそびえ立ち、その中央の山は形が似ていることから「キングコング・ヘッド」と呼ばれている。近くのワイルアには観光スポットが多く、「ワイルアリバー州立公園」には、かつて王族しか入れなかつ

た聖域「シダの洞窟」があり、結婚式や集会が行われていたとされる。川の南端にある「ワイルア滝」は世界最大級の降雨量があるワイアレ川に流れ、ア山に降る雨がワイアレ川に流れ込み、美しいダイナミックな水流をみせている。古代、戦士たちが王に勇気の証を見せるため飛び降りる儀式を行っていたと言われている。このほか島の中心地であるリフエではショッピングセンターでお土産を探したり博物館で文化遺産にふれることもでき、ビーチでくつろぎのひとときを過ごすのも楽しい。

旅の思い出をいつまでも 世界のお土産・手工芸品



ローズマーリング
(ノルウェー)

ノルウェーの伝統的なフォークアート。長く厳しい冬に彩りを添えるため、家具や食器などに花や草木をモチーフに描いた。豊かな自然を反映した美しさが魅力で、地域ごとにスタイルが異なる。



トカゲのモザイク
(スペイン)

ガウディの作品の一つ「ゲル公園」に置かれたモザイクで作られたトカゲが広く知られるようになり、バルセロナのシンボル的存在としてお土産としても人気になっている。



ヴェネチアン・グラス
(イタリア)

ヴェネチアのガラス工芸品。古代ローマ時代からの「吹きガラス技法」をもとに、繊細かつ華麗な技法が生み出されさまざまな形態、機能のガラス作品が作られた。グラス、アクセサリー、花瓶、照明など作品は多様。



トロールの人形
(アイスランド)

北欧で伝承される妖精「トロール」。巨大で怪力というイメージがあるが、トロール人形はおまじない効果があり、髪の毛をなでることで願いがかない、幸運をもたらすといわれている。



木彫りのマスク
(南アフリカ共和国)

アフリカの部族の祭礼をはじめとするさまざまな儀式において、木彫りのマスクが用いられた。生命力と独創性に満ち芸術性も高く、お土産としても高い人気を誇る。



パレオ
(タヒチ)

パレオは体に巻き付ける布を意味し、もともとはタヒチの民族衣装。タヒチアンダンスで目にすることが多いが、離島や地方では現在も日常着として使用されている。色鮮やかな自然をモチーフにしたデザインが特徴。



ティキの置物
(ハワイ)

ハワイでは木彫りの像や石の像など、神の像のことを「ティキ」といい、いたるところで目にすることができる。ハワイの四大神を表したもののが有名。顔の表情や頭の飾りが異なりそれぞれ意味をもつ。



パピルス画
(エジプト)

約5000年前に開発された世界最古の紙といわれるパピルスにエジプト文明や神々が描かれたもの。エジプト定番のお土産のひとつで、さまざまなシーンから選ぶことができる。



ポンビージャ
(アルゼンチン)

アルゼンチンでマテ茶を飲む際に使用するのが、ひょうたんから作られたマテ器とポンビージャと呼ばれる先端に茶こしが付いた金属製のストロー。マテ茶は美容と健康に良いとされ、日本でも注目されている。



トルコランプ
(トルコ)

トルコの伝統的なモザイクガラスがあしらわれたランプ。トルコではオスマン帝国時代から親しまれてきた。華やかな柄が特徴で時間が経っても色落ちしない。消灯時にも美しく、インテリアとしても人気が高い。



ガロ
(ポルトガル)

ポルトガルを象徴するシンボル。ガロは雄鶏を意味している。現地に伝わる昔話からガロは「幸運を呼ぶ雄鶏」として知られ、ポルトガルの多くの家庭に置物として飾られている。



ククサ
(フィンランド)

フィンランド北部のラップランドに住んでいたサーメ人に伝わる、白樺のコブをくりぬいて作られるマグカップ。丁寧に手作りされたククサは、「贈られた人は幸せになる」という言い伝えがある。



アボリジナル・アート
(オーストラリア)

先住民族アボリジニの人々により作られるアート作品。独特な色彩、表現方法が世界中から人気を集め、絵画をはじめバッグや財布、アクセサリーなどにも展開されている。



伝統柄の織物
(グアテマラ)

古代マヤの時代から続くグアテマラの織物文化は現代にも引き継がれています。北西部の高原地帯の村々で個性ある織物が作られ続け、デザインモチーフは多彩であり、色や模様の鮮やかさが特徴だ。



アルパカのぬいぐるみ
(ペルー)

アルパカの赤ちゃんの毛を使って作られている。自然素材のため触り心地が良く、愛くるしい表情も魅力。別売されているニット帽など組み合わせるとなお楽しい。



その後、お子さまが日本一周のショートクルーズに一人で乗船されたそうですね

チヤースクールなどに積極的に通つて趣味や特技の幅を広げていますよね。あとは自分のためだけに使える時間がたっぷりあることと、船旅だと荷物の持ち運びや出入国審査のストレスがなく旅を楽しめます。寄港地に着いたら軽装で観光に行けるなんて、とても素晴らしいことですよ。

それ以前に、長男は小学2年のときに私と一緒にピースボートのショートクルーズを体験していて、中学生になつて一人で乗船しました。船内では寝る部屋があつて、食事も食べられて、といったことを知っていたから本人はまったく不安なく乗船していましたね。もちろんクルー やスタッフの方が安全面ではフォローしてくださつていましたし、寄港地はほとんどが国内ですから私も心配はしていませんでした。子ども一人旅はもちろん親子やお孫さんと一緒にショートクルーズに参加するのもおすすめしたいですね。

世界遺産に関する仕事をするようになつたのはいつ頃からですか



水先案内人が語る

ピースボートと世界遺産の魅力

世界中の世界遺産を訪ねる旅を続け、その魅力を発信している久保美智代さん。船内では、ピースボートの旅をより有意義なものへと導いてくれる「水先案内人」としての講座が大人気。そんな久保さんにピースボートクルーズの魅力と、世界各地の寄港地から、訪ねやすく心に残る、おすすめの世界遺産を紹介してもらった。



水先案内人
旅する世界遺産研究家
久保 美智代さん

(株)愛媛朝日テレビ局開設に伴い、アナウンサー第一期生として入社。その後、東京で独立。世界遺産に魅せられて現在まで53カ国414カ所訪問を達成。京都で二人の子どもを育てながら、講演や執筆活動を通じて世界遺産の意義や素晴らしさを伝えている。

初めてピースボートクルーズに乗船されたときの印象を教えてください

私は元々、学生の頃からピースボートに興味があつて、ボランティアをしてみたいと事務所に行つたこともありますよ。結局ボランティアはしなかつたのですが、それから社会になり、世界遺産に関する仕事をするようになって、水先案内人として声をかけていただいたのも不思議な縁だと思います。

初乗船は10年前の2012年5月出航の第76回クルーズです。

船旅の魅力をどんなところに感じられましたか

船旅の魅力は日常から解き放たれることですね。そして新たな自分を発見できること。私は普段の生活ではスルーしていたこと、たとえばソーラン節や太極拳、卓球などにチャレンジしました。船上だと「やってみようかな」という気持ちになるのは人目を気にしなくていいし、失敗を怖れないようになります。それは私だけでなく、乗客の皆さんも船内のカル



以上のことはありませんよね(笑)。また私は教育学部の出身なので、アナウンサーとしての話すスキルに加えて「素晴らしいものを伝えたい」という志向がうまくシンクロして、世界遺産についての講演や執筆をさせていただきました。

大学卒業後にアナウンサーになり、独立後にアメリカ横断の旅行から自然の雄大さに惹かれ、それが世界遺産を巡っていくきっかけになりました。30歳くらいのときに、世界遺産の素晴らしさを伝える活動をしていたら、ある大学の先生が面白がってくれて学園祭の講師で呼ばれたのが、初めての仕事になりました。

そしてその先生が「世界遺産ハンター」と名付けてくれたのです。好きな旅の話が仕事になるつて、これ

なかなか言でいうのは難しいのですが、世界遺産は「多様性の傑作集」だと思います。遺産といつてもさまざまな種類があり、歴史も時代も、つ

くつた人も、生まれた自然環境も違う。だから唯一無二なんです。また世界遺産から学ぶこと、見えてくることも多々あります。たとえばクロアチアのドブロブニクを訪れる「アドリア海の真珠」と称される白い壁、オレンジ色の屋根が連なる美しい街並による銃弾や砲弾の跡といったものが生きしく残っている。歴史を知ることによって見え方も感じ方も変わりますよね。世界遺産を深く捉えっこをおすすめしますし、帰つてから学んでもいいと思います。

最初の印象は、船内の雰囲気ですね。老若男女、国籍もさまざまでしたがとてもピースフルでした。私がテーマにしているのが「平和」で、「世界遺産は心に平和の砦を築くためにある」という考え方なので、ピースボートとは相性が良かったのかも知れません。水先案内人としての講座以外の時間はデッキを散歩したり海を眺めたり、一般の参加者と同じように楽しみました(笑)。そして夜の星がとても綺麗でした。流れ星は感動的でしたね。



**船旅で訪れる世界遺産の醍醐味とは
どんなところにありますか**

寄港地によってその旅が変化することだと思います。一般的なツアードと参加者全員と一緒にまわって行きますが、長い船旅だとそれぞれの寄港地で誰と行動するかは決まっていない。水先案内人の講座を聴いて興味をもつた人同士が、気が合って行動することもあるでしょう。したまたバスで仲良くなったり、またまとまることがありますから、そのときの状況は変化していくことがあります。また最初の頃は海外旅行初心者だったけれど2ヶ月も経つと、中級、上級の旅になっていく。それに世界遺産の味わい方というのも変わっていますから、その辺りが船旅の醍醐味だと思います。

ぜひ行って欲しい、おすすめの世界遺産をご紹介ください

おすすめ、といわれればもうやりませんよ(笑)。今回は厳選して、港に船が着岸し、比較的訪ねやすい世界遺産をご紹介します。



シンガポール植物園

まずシンガポールからですが、ボールでは唯一の世界遺産で世界の植物園のなかでもトップクラスの美しさです。朝から夜中まで開いて、入園料は無料というのも魅力。園内にはレストランもありゆっくりくつろげます。

次はヨーロッパとアジアの交差点にある「イスタンブール歴史地域」です。旧市街のグランドバザールは4000以上の店が並び、アラジンの魔法のランプに出てくるような雰囲気です。そこに迷い込むのもまた楽しいですよ。またブルーモスクは必見です。貝殻を重ねたようなドーム屋根が美しく、モザイク柄の

スティンドグラスとイズニックタイルに電車で行く人もいますね。丘を見上げながら近づいていくと高揚感が増していきます。ユネスコのマーカになつてあるパルテノン神殿は女神アテナが祀られており、ギリシャ神話を勉強していくとさらに楽しくなると思います。また周辺には遺跡がたくさんありますから、ギリシャ時代にタイムスリップしたような感覚になります。

ポルトガルは「里斯ボンのジェロニモス修道院とベレンの塔」も港から近くにあります。大西洋へ出る際の出発地点となつた大航海時代を感じさせる街で、「ジェロニモス修道院」は当時を象徴する記念碑的な建物です。外観は船のロープなどが彫刻され、中庭にはカルベラ船の透かし彫りも見られます。ヴァスコ・ダ・ガマの棺が安置されていることでも有名ですね。川沿いに下ると「ベレンの塔」があります。河口を守る要塞ですが「テージョ川の貴婦人」と呼ばれるほど優美な姿で建っています。



ヴァチカン市国



ケベック旧市街の歴史地区



オペラハウス



ケープ植物区保護地域群

ローマは世界屈指の観光地であり見どころもたくさんあります。『ローマ歴史地区』にはコロッセオ、フォロロマーノ、パンテオノン、カラカラ浴場などローマ時代の遺跡が街中にあります。『グラディエーター』『ローマの休日』『テルマエ・ロマエ』など映画の主人公の気分で歩くのも楽しいでしょう。「ヴァチカン市国」はカトリック教会の総本山で国全体が世界遺産です。サン・ピエトロ大聖堂では行列必至ですが、半球状のドーム型屋根「グーポラ」に上つてください。ドーム画のフレスコ画を間近に見られ、大聖堂内のモザイク床などを見下ろすことができ、外に出れば円形に縁取られた絶景に出

会えます。あとシスティーナ礼拝堂の『最後の審判』は中にいることができればぜひ鑑賞してほしいです。カナダの「ケベック旧市街の歴史地区」は、ピースボートクルーズでは紅葉の時期に合わせてツアーや組まれているようなのでおすすめです。セントローレンス川を見下ろすようにシャトーフロントンナックが堂々と建つ風景は絵葉書のようです。赤く色づいたメープル街道をゆっくりご堪能ください。

オーストラリアの「シドニー・オペラハウス」は船が真横を通過します。シドニー湾のシンボルで、時間帯や角度によって美しさが変化します。公園やヨットハーバーなどがあ

り、辺りを散策してもとても気持ちの良い場所です。

シドニー港と同様に世界三大美港とも称されるリオデジャネイロでは「カリオカの景観群」が世界遺産に登録されています。また、私が行つてみたい場所でいえば、モアイで有名な「ラパ・ヌイ国立公園」ですね。南アフリカのケープタウンなら世界でも類のないほど植物の種類が多い「ケープ植物区保護地域群」は訪れてみたいですね。414カ所の世界遺産を巡った私もこれら南半球の世界遺産はまだ訪ねたことがないのですが、ピースボートクルーズなら一度で巡つていけるので私も乗船したいですね。

**最後にこれから乗船を予定されている方へ
メッセージをお願いします**

船旅は飛行機と違つて、乗船してから洋上で徐々に非日常へと変わっていきます。とてもナチュラルに旅に慣れながら新しい世界に入つていい年齢に関係なく人生が変わつていています。そのくらいインパクトのある船旅ですね。極端にいえば私は「ピースボートクルーズが世界遺産だ」、くらいの考えでいます。皆さんも乗船を楽しみにしていてください! ♪



ローマ



ベレンの塔



パルテノン神殿



イスタンブール歴史地域

長期化する侵攻 支援の継続を

PBVは2022年3月、6月に続いて10月にもスタッフをルーマニアに派遣。現地の提携団体と支援活動の進捗と調整、避難民からの聞き取りなどを行った。これまで行ってきたウクライナの病院へ医薬品の配布(のべ15カ所の病院を支援)、ルーマニアで暮らす避難民への支援、ウクライナのがん患者とその家族への転院サポート(240人の患者を支援)等の活動の継続を確認するとともに、新たに二つについても情報収集を実施した。また10月以降のロシア軍のウクライナのインフラ施設への攻撃によって、深刻な電力不足となっていることから新たな支援が検討されている。

スタッフの鈴木郁乃さんは現状を次のように語る。「氷点下のなかヒーターも使えずお湯も出ない状況なのが、乌克兰国内で炊き出しを行っている団体への支援を追加します。越冬のための物資配布も検討中です。またこの状況から一時落ちていたルーマニアをはじめとした周辺国への避難民の流入が増加することも予測されているため、現地では受け入れ態勢の強化が進んでいます」。



で、ウクライナ国内で炊き出しを行っている団体への支援を追加します。越冬のための物資配布も検討中です。またこの状況から一時落ちていたルーマニアをはじめとした周辺国への避難民の流入が増加することも予測されているため、現地では受け入れ態勢の強化が進んでいます」。

ウクライナ人道支援

ピースボート災害支援センター活動報告

ピースボート災害支援センター(PBV)はロシア軍によるウクライナ侵攻直後から、ウクライナの隣国ルーマニアの複数の提携団体とともに人道支援を続けている。長引く侵攻において現在どのような支援が行われているか、活動内容を報告する。



このほかルーマニアで物資支給や難民への語学教育などを実施している団体への追加支援も決定した。さらにウクライナで負傷した人を国外で治療、リハビリするプロジェクトも進んでいる。侵攻が長期化するなか、鈴木さんが今後の支援への思いを語ってくれた。

「戦争が終わる、早く復興へ向けて筋道を立てていきたい」という思いが一番です。ただ現状は、自然災害後の支援とは異なり被害が発生し続けてい

るなかでの対応で、支援のニーズがくならないことが難しい点です。皆さんからお預かりしたご寄付を活用し、今後も現地のニーズに合った支援活動を継続していきます。もう一つ付け加えると、ウクライナには長い間、ピースボートクルーズを支えてくれたスタッフが大勢います。彼らの故郷に一日も早く平和が訪れることが願いながら、これからも支援に向かっていきたいと思います」。



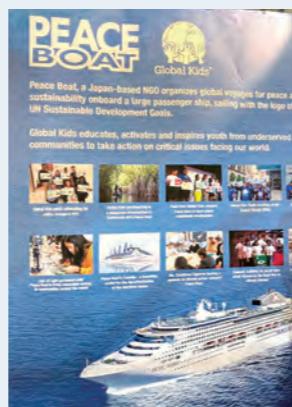
COP27参加報告

海洋・気候危機のためのアフリカユース・プログラムを発表！

COPは、現在世界が直面する深刻な気候危機解決のため、必要な国際ルールを議論して、その枠組みを決める国連の重要な会議。各国のエネルギー政策、最先端技術、企業経営や投資、市民の消費行動、そしてSDGsなど幅広いテーマが話し合われた。

今回の会議では巨大ハリケーン、砂漠化、海面上昇などの気候危機で多大な被害を被る発展途上国への支援が焦点となり、最終的に先進国の大金提供による「損失と損害」基金の設立が合意された。

ピースボートはこれまで気候危機によつて生存の危機に瀕している太平洋やカリブ海の島々から若者をクルーズに招き、その現実を世界に発信する「オーシャン＆クライメイト・ユース



マータイさんはピースボートへの大きな期待を表明してくれた。

この両団体と協力して、来年はアフリカ各国の若者をクルーズに招き、「オーシャン＆クライメイト・アフリカ・ユースアンバサダー・プログラム」を行う予定。船上、寄港地でさまざまな活動に取り組んでもらい、気候危機に直面するアフリカの人々の声を世界に届ける。



COPは、現在世界が直面する深刻な気候危機解決のため、必要な国際ルールを議論して、その枠組みを決める国連の重要な会議。各国のエネルギー政策、最先端技術、企業経営や投資、市民の消費行動、そしてSDGsなど幅広いテーマが話し合われた。

今回の会議では巨大ハリケーン、砂漠化、海面上昇などの気候危機で多大な被害を被る発展途上国への支援が焦点となり、最終的に先進国の大金提供による「損失と損害」基金の設立が合意された。

ピースボートはこれまで気候危機によつて生存の危機に瀕している太平洋やカリブ海の島々から若者をクルーズに招き、その現実を世界に発信する「オーシャン＆クライメイト・ユース



2022年 ウクライナ緊急支援募金

ルーマニアとウクライナで活動する複数のNGOとともに多岐にわたる支援活動を実施しています。詳しくはPBVウェブサイト等でご確認ください。

募金方法

- 郵便振替
- 銀行振込
- クレジットカード
- yahoo!ネット募金
- 携帯料金といっしょに寄付する

お気軽にお問い合わせください

TEL.03-3363-7967 11:00～16:00 土日祝定休



船上百景 [旧正月]



船内は赤い提灯をはじめとする旧正月の飾り付けがされ、踊りや京劇などのパフォーマンスが披露される。



レストランメニューにも伝統的なお祝いのご馳走が登場。



飾り物をつくる有志の乗船者。

みんなで一緒に祝う 出身地域にかかわらず

アジア諸地域では旧暦で正月を祝うので、冬のクルーズの場合、ピースボートではお正月は2回やつてくる。アジア諸国からの乗船者もいるため、船内は縁起の良い色とされる赤や黄色の飾り付けでいっぱいになる。その準備では飾り物を一緒につくったり、干支の置物をつくったり、文化交流できるのも素敵なものだ。干支は日本の十二支と同じだが、「つだけ違うのは「亥」で、日本では猪だが中国や韓国などでは豚になる。旧正月は家族や大切な人とゆづくり過ごすと言われており、船内でもみんなが出身地域にかかわらず一つの家族のように温かな雰囲気でお祝いをする。中国の伝統的な音楽や踊りが披露されたり、モンゴル語のパフォーマンスが披露されたり、各国の歌や楽器による演奏によって、たくさんの笑顔があふれる。

「ハワイ島で38年ぶりの大規模噴火」「ウクライナのオデッサでドローン攻撃による大規模停電」。この原稿を書いていたときに今号で「紹介しているハワイやウクライナのニュースが飛び込んできました。どちらも心配なニュースではあります、クルーズの関係者やそのご家族は無事だという報告は受けています。

オデッサといえば、ピースボートクルーズで長年船長を務めていたキャプテン・アリモフをはじめ多くの乗組員が暮らす街もあります。現在はオデッサから安全な地域に避難していると聞きますが、同じウクライナ国内から日本へ避難してきたケースもあります。数年前から船上で素晴らしい演奏を披露していたアレックスもその一人です。今は札幌市内にある「ペチカ」というロシア料理店で、船内と同じようにさまざまな楽器を駆使して世界中の音楽をお客様に届けています。そんなアレックスも今年4月以来に出行するピースボートクルーズへの乗船が決まっていますので、船に乗られた際には彼の奏でる優しさの中にも憂いを帶びた音色に耳を傾けてみてください。旅をするにはやはり平和な状態でなければなりません。「旅が平和をつくり、平和が旅を可能にする」という言葉の意味をかみしめながら、スタッフ一同今年も励んでまいります。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。(N・I)



集記
編後